

2 がんばってます！大手川改修工事

丹後土木事務所災害対策室

【概要】

「宮津の歴史と自然を生かした安全で心安らぐ水辺づくり」をテーマに、地域住民との関係を模索しながら、様々な企画や施策を積極的に展開し、府民参画型の河川改修事業を進めています。

< 模索事項 >

- ・限られた期間内に市街地の工事を進めていくため、地元住民の理解と協力を得るには、どうしたらよいだろうか？
- ・河川改修後、市民に愛され親しまれながら地域にも大切に維持管理してもらえる川にするために、どうしたらよいだろうか？



背景

宮津市の街中を流れる錦鯉が泳ぐ川として、大手川は市民に親しまれてきました。

しかし、未改修の河川であったことから、平成16年10月の台風23号では建物の床上・床下浸水約2,500戸の大規模な浸水被害をもたらしました。そのため、「河川激甚災害対策特別緊急事業」として、約4.8km区間を平成21年度末の事業完了を目標に、工事に取り組むことになりました。

街中の大規模な工事を限られた期間のなかで進めていくには、地元住民の事業に対する理解と協力は不可欠であり、事業を進めるにあたって如何に地元住民との信頼関係を築いていくかがとても大切なこととなってきます。

一方、事業に携わる職員間のビジョンとミッションを共有し、モチベーションと強いチームワークを保って、前向きな姿勢で取り組むことができる組織体質が求められます。

目的

「府民参画により市民に愛され・親しまれる川をつくる」

現場で事業に携わる私たちは、あたかも工事をするのみが目的であるような錯覚に陥りますが、事業の最終目標は、工事によってできたものを満足して府民の方に使ってもらい、利便性や安心安全を享受してもらうことです。

大手川も河川改修後の姿をイメージし、大雨が降っても地域住民に安心安全を提供し、住民自らが河川環境を大切にするという気持ちもてるように「市民に愛され・親しまれる川をつくる」ことが目的です！

取組

まずは信頼関係・・・一人一人が営業マン（「出前語らい」の実施）

私たち公務員はサービス業！

事業着手にあたり、府民との信頼関係を築き、顧客またパートナーとして事業に関して協力を得たいと考えました。そのために、営業マン意識で事業の概要や私たちの顔や名前を知ってもらうため、「出前語らい」により積極的に地元に入ることにしました。

工事が進むなかでも工事見学会を企画したり、工事の施工方法を現場に掲示するなど、たくさんの方に知っていただけるようにPR方法も工夫しています。



高齢者の方にも伝わりやすい情報発信

工事現場の周辺の方は、生活環境に影響するため事業がどのように進んでいくが非常に関心をもたれています。一方、関係住民の方は情報がなかなか入ってこない、不安と行政に対する不信感を募らされます。

大手川では、事業の計画や進捗がわかよう「大手川だより」という月刊情報を出すことにしました。情報発信の内容は受け手側が如何に理解し、興味を抱いてもらえるかということも意識し、大手川の生き物の紹介や河川の専門用語の説明、事業担当者のコラムも交えています。

特に情報の発信方法は、ホームページ以外に高齢者の方等にも伝わりやすいように宮津市と協力し、市内各自治会に紙のチラシも配布しています。



工事の様子や着手箇所を写真で掲載明示

通行規制の情報や川に関するコラムを掲載

コミュニケーション・・・お互いを理解し、共通認識を持とう！

「市民に愛され・親しまれる川」をつくるため、ワークショップを開き、計画策定段階から住民に参画していただくことにしました。ワークショップのグループには、担当職員もメンバーとして入り、同じテーブルで作業をしました。



参加者で現地見学をし、グループ作業を開始！

工事等で苦情が入った際もとりあえず現場に向かい、相手方に出会って話を聞くことを心がけています。顔を見ることによって、言葉以上のコミュニケーションが相手方と図れます。

住民も行政もそれぞれの立場で言い分があり、問題を解決してことを進めていくには、お互い理解し合い共通認識をもつことが、事業を進めていくうえで協力関係を築くベースになると思います。



テーブルを囲んだワークショップの様子

「共汗」が「共感」に！

改修後、河川的环境整備に対する意識を広く地域住民の方に持っていただきたいと思い、沿川自治会に声をかけ、河川の一斉清掃を行う「大手川クリーン大作戦」を実施しました。上流から下流の約200名の住民参加に府・市の職員も加わり、休日の朝から共に汗をかきました。

みんなで共に汗をかくことによって、共感が生まれ、お互いの協力意識が高まりました。



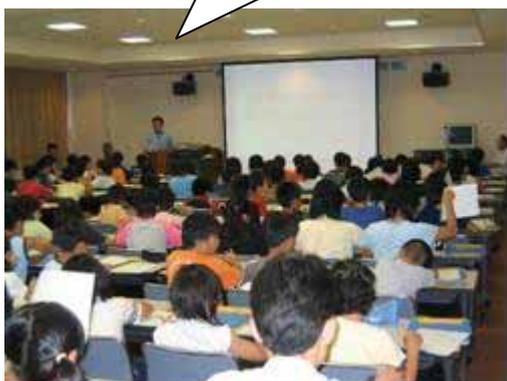
河川環境整備の応援団づくり

工事は5年程度で終わりますが、整備された河川は永遠にこの地域に流れ続きます。将来において大手川と共生することになる子供たちにもしっかりと、大手川のDNAをもってもらいたいと思っています。

地元自然環境保護団体との協働により、沿川の小学校に相談し、「大手川水辺の学校」と題した大手川の自然観察会を、授業の一環として実施することとしました。

子供にとって、教室を離れた川のフィールドワークは興味津々のものでした。大手川に生息する生物を知り、河川環境に対する意識も抱いてくれたと思います。

まずは教室で基礎知識を



これを使うと、河口の
カニが捕れるんだよ



おじさんが投げた網で
何が捕れるんだろう？



先生、この虫は
これかなあ...



事業のパートナーである請負業者と共に進める意識改革

工事現場で実際に施工するのは請負建設業者です。

事業のパートナーである請負業者との意思の疎通がなければ、円滑な工事も地元住民との良好な関係も築かれません。

住民の理解と協力が得られ、苦情も少なく安全で円滑な工事ができるように、大手川の工事を施工する各請負建設業者が参画する連絡協議会を立ち上げ、連携体制を整えました。

関係請負業者間の話し合いの場ができたことによって、進捗や周辺の安全確保等に関する工事間調整が円滑に図れるようになり、連絡協議会メンバー間で工事のイメージアップ等の様々な取り組みが主体的に進められる仕組みづくりにもなりました。



ダンプに大手川工事のエプロンを付けてます!



付近の幼稚園児が描いた絵が貼ってあります!



工事作業者のヘルメットにも付いています!



< 取組事例 >

- ・環境に配慮した「大手川整備計画案」の縦覧
- ・様々な関係団体への出前語らいの実施（7回）
- ・一部区間（2区間）の計画策定作業に市民参画のワークショップ（3回）実施
- ・改修工事に係る月刊情報紙として「大手川だより」をH.18年1月から市内全域に配布
- ・地元自然保護団体と協力し、沿川小学校と協働で水辺の自然観察会を実施（2回）
- ・沿川小学校を対象に工事見学会を開催（2回）
- ・沿川地元自治会と協働で環境整備活動「大手川クリーン大作戦」を実施（参加200名）
- ・ホームページによるタイムリーな情報発信
- ・工事請負業者参画の大手川安全対策協議会による積極的な工事イメージアップの取組み

効果

広がる取組

さまざまな取組を行う中で河川改修工事に対する住民の理解者や協力者が増えていることを感じます。

ワークショップに参加した住民メンバーに声を掛け、ある施工区間で実際に杭打ち等の施設作りに参加していただいたりもしています。このように自治会、小学校、関係団体、ワークショップ参加者等に参画・協働の事業提案をした場合、気持ちよく協働体制をとってくれるような状況になってきました。

事業パートナーである工事請負業者からも、工事現場に鯉のぼりをあげたり、花壇と街灯の設置、夏場の噴水設置等、地域住民の方を楽しませる様々な積極的な提案や取組がで

てくるようになってきました。小学校児童を対象とした工事見学会でも、請負業者の現場担当者が率先して子供用の資料を作り、親しみを込めて説明してくれます。



工事請負業からの様々な提案



沿川小学校児童の工事見学会

地域の変化

「大手川フォットクラブ」を作り、広く市民に大手川に関する写真の募集をしています。動植物・風景写真と一緒に現場で工事に携わる職員や作業員の写真も、市民の方から送られたりします。

工事請負業者が現場付近の清掃活動を定期的に行っていることも、沿川地元自治会と協働による「大手川クリーン大作戦」という環境整備活動の取組に繋がったのではないかと思います。

様々な府民協働の取組や積極的なPRによって、地域において大手川改修に係る良い意味での関心が高まってきていると感じます。



市民から投稿された写真

担当者のモチベーション

改修事業の進め方をいろいろな手法でPRすることによって、他府県からの視察や全国的なシンポジウム等での発表依頼があります。

周りから注目されることによって、担当職員や請負施工業者もやる気が出てき、忙しい中でも積極的な取組姿勢にむすびついていると思います。

組織としての事業量が多いため、業務が1人の担当者に偏りだした場合は臨機応変に補充しあうように心がけています。忙しくたいへんだから助け合わざるを得ない。そのことが、逆に強いチームワークを作っているのかも知れません。

余談ですが飲みニケーションが多いチームであることも事実です。



「日本の“いい川”シンポジウム」で発表しました。



東京都建設局の職員が現地視察に来られました。

現在

指標は住民満足

事業も終盤になり改修工事もピークを迎えるなか、地域住民の協力のもと、工事は比較的円滑に進んでいると思います。今までの住民協働による取組が下地となり、大手川

改修に対する住民理解者の裾野が広がってきているからだと思います。

改修後の「市民に愛され・親しまれる川づくり」を目標に、住民満足を指標とし、様々な府民参画型の取組や新しい公共工事のスタイルを模索しながら、より良いものにするための企画提案や見直しを継続的に行っています。

ちなみに、新たに次のようなことを始めました。

- ・ヘルメット無しで立ち入れる常設の見学場所の設置。
- ・小学生児童を対象に「子供副読本 大手川改修」を作成と配布、HP公開。
- ・大手川のイメージキャラクターを作成し、愛称名を公募 等

住民満足を指標に
継続的な取組を行っています！



ヘルメット無しで常時工事が見学
できる場所です。



子供副読本を作って、配布し
て児童に配布しました

振り返りと今後の課題

いろいろな取組を展開する中で、種々団体との協働作業もやっと板に付いてきたような感じがしています。

改修事業完了後、地域の方々が自主的に河川愛護や河川環境保全などを行っていただけるという最終目標に向けて、如何にして仕組み作りをしていくかということが、今後の課題です。

ホームページによるPR

(「大手川だより」,「キャラクター」の愛称募集 等)

大手川だより43号

 [本文を音声で聴く](#) ([ご利用案内](#))



今年も「リバーウォッチング」を開催しました！

夏休みも真っ盛りの8月1日(金曜日)、地元小学生のみなさんと松原橋周辺で「[大手川リバーウォッチング](#)」を行いました。

これは、宮津市と大手川改修促進協議会が、次代を担う子供たちに大手川に親しんでもらおうと、毎年夏休みに行っているものです。



 丹後土木事務所

- [分野で探す](#) | [組織で探す](#)
- [道路・河川名等から探す](#)
- [Q&Aで探す](#) | [用語と目](#)

各種のシステム

防災関係情報

- [道路情報提供システム](#)
- [京都府河川防災情報](#)
- [統合型地理情報システム](#)

各種情報

- [お知らせ](#) | [防災全般](#)
- [主要事業](#) | [運営目標](#)
- [道路情報](#) | [工事関係](#)
- [府営住宅](#) | [報道発表](#)
- [管内図\(災害対応マップ\)](#)
- [申請ダウンロード・ナビ](#)

観光関連